

観察の眼「箕面の自然一夏一」

No.1

《商店街～聖天橋》

実施日：2021年7月2日(金) 天候：曇りのち雨

1班 山口千恵子



ヒメイタビ (クワ科) つる性木本 雌雄異株 葉裏は葉脈が著しく隆起し、網目がめだつ



クサギ(シソ科) 名前の由来は木全体に臭気があるため



カラムシ (イラクサ科) 繊維をとる目的で移入、フクスズメの食草 本日は葉の裏にテントウムシの幼虫、表に成虫がいた



チャセンシダ (チャセンシダ科) 和名は羽片の落ちた古い軸が束になって残っている様子から「茶筌」とついた



シラカシ (ブナ科) 土用芽がみられた 聖天展望台付近のコナラやアラカシにもみられた



ケヤキ (ニレ科)

大・小2種類の葉。小さい葉は小枝に大きな本葉より先に展開、開花し、果実をつける 秋には小枝の葉は先に黄葉、小枝ごと散る 風媒花であり、同時展開すると本葉は邪魔になる

土用芽とは一般には、梅雨明けの土用の頃伸びる新芽のこと 成長せず枯れることが多い 最近では地球温暖化の所為で梅雨の最中でも見られるようになってきている



ツタ (ブドウ科) 鋸歯がある 無毛 吸盤のある巻きひげを出す 吸盤をつかって木や石垣をのぼる



アオギリ(アオイ科) 花がみられた 葉は大型でフォークのように3裂または5裂する



ビワ (バラ科)

葉は枝先に集まってつく 花は晩秋から冬に咲く(12月)

今年は沢山の果実がみられた
 昨年の秋の気温が高く、虫媒がうまくすすんだからか

ヒメコウゾ(クワ科)

若木は葉形の変異が多い



イヌビワ (クワ科) 雌雄異株 互生・単葉・全縁
 イヌビワコバチが花粉を媒介する



マメヅタ (ウラボシ科) 胞子葉にソーラスがぎっしり



アリドオシ (アカネ科) 「一両」蟻をも通す鋭い刺を有する 赤い果実が見られた





イロハモミジ (ムクロジ科)

翼果は上向き



オオモミジ (ムクロジ科) 瀧安字寺境内

翼果は下向き

イロハモミジの翼果は何故上向きなのか →イロハモミジは木枯らしが吹く頃まで葉を残す(オオモミジは一斉に紅葉してすぐ散る)葉の上に翼果がある方が風がよく当たり遠くへ飛びやすいから・・・



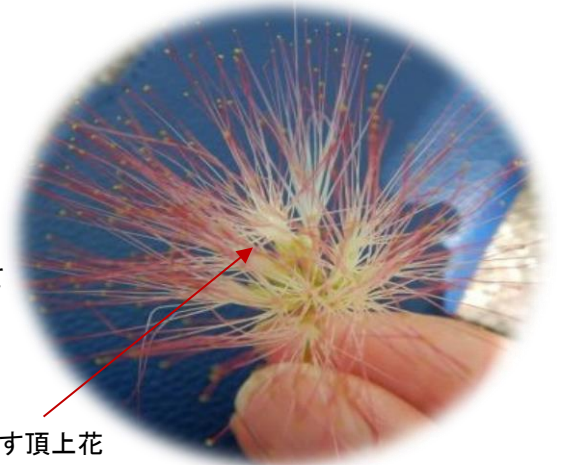
ネムノキ(マメ)

葉→二回羽状複葉 小葉は庖丁のような形で先は尖る 名の由来…夜になると葉をとじて就眠運動することから

花→10～20個の集合花 雄しべの花糸は先が淡紅色で30本ほど 雌しべは白く1本

雄しべが先に熟して花粉を出し終わると萎れて雌しべが目立つ (雄性先熟)

蜜を出す頂上花



アジサイ(アジサイ科)



真花は装飾化をかき分けた根本にある 気象庁が発表している開花は真花が咲いたことをいう



ガクアジサイの真花



ムクゲ(アオイ科) 園芸種でヒノマル「日の丸」花の中心が赤い



ネコハギ (マメ科) 全体に黄褐色の毛が多く、
葉をさわるとフワフワ



リョウブ (リョウブ科) 花は白い総状花序 果実
が残っている



ナツハゼ (ツツジ科)
葉の縁に硬い毛が多く、触るとざらつく



モチツツジ (ツツジ科)
ネバネバは蕾や花期のみ



シャシャンボ (ツツジ科) 葉は無毛、葉柄が短く、
赤みを帯びることも 葉の裏の主脈上に突起がある
ネジキに似た白い花がみられた



ネジキ (ツツジ科) 花は白くスズランに似て下
向き 実を上向き

【 もともと尾根筋にアカマツ・ツツジ・コシダ群落が形
成されていたが松は枯れてツツジ科の樹木が多く残っ
ている 】

**コシダ
(ウラボシ科)**





アマヅル(ブドウ科)
鋸歯の間は弧を描き膨らむ



サンカクヅル(ブドウ科)
葉身の両肩がやや突き出て三つ角がある



アカメガシワ(トウダイグサ科)
雌雄異株 雄花の円錐花序
パイオニアプラント、順次開葉



ソヨゴ(モチノキ科) 雌雄異株 果柄が長い

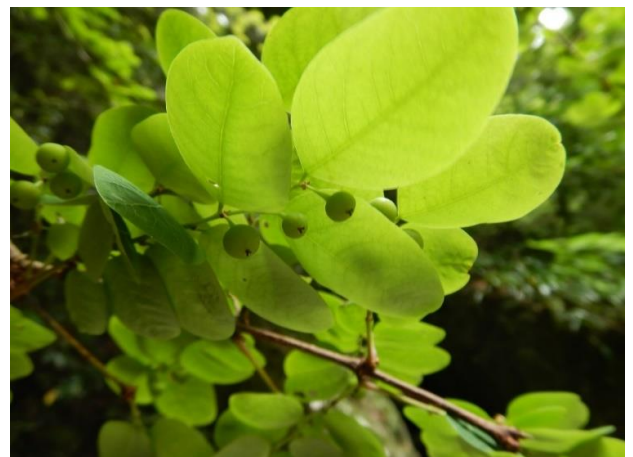
《左岸道～姫岩》



オオハンゲ(サトイモ科) 葉は3裂する単葉
似ているカラスビシャク「半夏」葉は3小葉からなる
これより大きいので「大半夏」



ハエドクソウ(ハエドクソウ科)
つぼみは上むきだが開花すると
横を向き、果期には下をむく



コバンノキ(コミカンソウ科)
細長い枝に互生して葉が並び羽状複葉にみえるが葉腋
に花や果実があり単葉とわかる



ミズタビラコ(ムラサキ科) 白色または淡青紫色の花は
サソリ型花序につき下方から次々に咲き上がる



頭花は枝先に1個
下向きにつける
花は緑白色 包葉
は5個以上つく

コヤブタバコ(キク科) よく分枝し、長い枝を横に伸ばす 根生葉は花が咲く頃枯れる



ヒメコウゾ(クワ科) 集合果は橙色



ササクサ(イネ科)

《 今日出会った生き物 》



ナミマイマイ



ラミーカミキリ
幼虫がラミー(カラムシ)の
茎に入り根で越冬する



アベマキの樹液に集まった
「コガネムシの仲間」



雨後の滝道に出てきた
「サワガニ」



ミツデウラボシ(ウラボシ科) 葉が3つに分かれ、ソーラスが丸くて星のようだから、三手裏星 桜餅の香りがする



アクシバ(ツツジ科) 白色の花は下垂する 4裂する花弁が外側に強くカールする



イズセンリョウ (サクラソウ科) 雌雄異株
乳白色の果実がみられた